



西のアザナからの眺望

令和2年度事業概要

国営沖縄記念公園 首里城地区

# 首里城公園

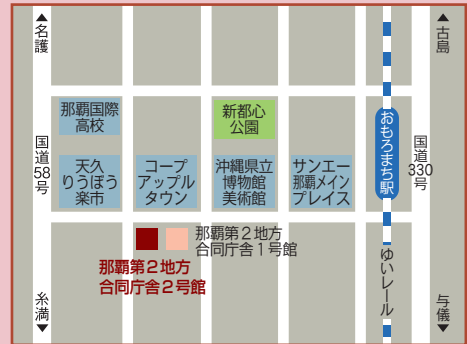
内閣府沖縄総合事務局  
国営沖縄記念公園事務所



国営沖縄記念公園事務所 所在地



首里出張所 所在地



正殿の西に沈む夕日(東のアザナから)

内閣府 沖縄総合事務局  
国営沖縄記念公園事務所

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川424番地  
TEL. 0980-48-3140 FAX. 0980-48-3793  
<http://www.dc.ogb.go.jp/kouen/>

首里出張所

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち2丁目1番1号  
那覇第2地方合同庁舎2号館 3階  
TEL. 098-866-1983

国営沖縄記念公園 Official Site  
<http://oki-park.jp/>



首里城公園のライトアップ





# 事業の内容

## 首里城の復元・復興

首里城地区においては、平成元年より復元工事に着手し、平成31年2月に御原エリア、東のアザナエリア等、1.1haの区域を開園し、全てのエリアを開園しました。

しかし、令和元年10月31日未明に発生した火災により、正殿等8つの施設が焼失しました。今後は政府の基本方針に基づき、地元関係者、関係機関、有識者の方々と共に首里城の復元に向けて取り組んでいきます。

首里城復元に向けた「3本柱」の下、令和2年度は、焼失施設の解体、仮設電気設備復旧、工事用仮設道路設置、技術的検討等を行っています。

### 首里城火災後の経緯

令和元年10月31日	未明に火災発生、同日午後には鎮火。首里城公園全域を閉園
11月1日	警察・消防による調査開始
11月5日	首里社館や駐車場など県営公園区域の一部施設を開園
11月30日	県営公園区域を全て開園
12月11日	「首里城復元に向けた基本的な方針」を閣議決定
12月12日	国営公園区域の一部(約2.6ha)を開園
12月14日	国営公園区域の一部(約0.2ha)を開園
	消防による規制の解除
12月27日	第1回首里城復元に向けた技術検討等委員会

### 首里城復元整備の歩み

年代	事項
昭和33	守礼門復元修理工事竣工。
昭和43	円覚寺経門復元工事、弁財天堂復元修理工事竣工。
昭和44	天女橋修理工事竣工。
昭和45	琉球政府文化財保護委員会が、首里城跡及び周辺の戦災文化財の復元計画を策定。 日本政府は、第一次沖繩復興対策要項を閣議決定し、戦災文化財などの復元修理を推進することを明らかにする。
昭和46	総理府沖繩北方対策庁予算の中で、戦災文化財復元調査費が計上される。 第一次沖繩復興開発計画で、戦災文化財の復元を積極的に推進することを明記。 首里城欽会等の整備に着手。
昭和48	玉陵復元修理工事着手。 「首里城復元期成会」が結成される。
昭和49	首里城欽会門復元修理工事竣工。
昭和51	首里城久慶門の整備に着手。 玉陵復元修理工事竣工。
昭和53	那覇市総合計画の中で史跡の復元・保存がうたわれ、首里城周辺を公園緑地整備の一環として総合公園化する構想が立案される。 那覇市より「首里城跡周辺整備基本構想調査」が実施される。
昭和54	那覇市より「琉大跡地利用基本計画調査」が実施される。
昭和57	沖縄県より琉球大学跡地利用の計画がまとまる。 第二次沖繩復興開発計画の中で、「首里城跡一帯の歴史的風土を生かしつつ、公園としてふさわしい範囲について整備を検討することが位置付けられる。
昭和59	那覇市より「首里城地区歴史的地区環境整備基本計画調査」が実施される。 首里城久慶門内側の整備に着手。 園比屋武御前石門保存修理工事竣工。 沖縄県が「首里城公園基本計画」を策定。
昭和60	昭和60年度政府予算に首里城正殿等基礎調査費が計上される。
昭和61	沖縄県が「首里城公園整備計画調査」を策定。 国営公園区域について「国営沖繩記念公園首里地区(仮称)」として事業着手。
平成27	「国営沖繩記念公園首里城地区」として、首里城跡約4haの整備が閣議決定。
平成28	国営公園予定地の周辺を、県営公園とすることで庁議決定。
平成29	那覇市より、史跡「龍潭及びその周辺の保存整備計画調査」が実施される。
平成30	12.16 入園者6,000万人達成。
平成31	02.01 国営沖繩記念公園首里城地区 全エリア開園(1.1ha追加 供用面積4.7ha)。
令和元年	04.01 東のアザナ、白銀門、二階御殿、供用。 10.31 世時殿、女官居室、後之御殿、美福門 供用。 10.31 首里城正殿等焼失。

※赤:国が整備を実施 青:国以外が整備を実施

令和2年1月29日	警察による火災現場の規制解除
2月4日	火災現場をマスコミ・地元関係者・関係団体へ公開
2月10日	破損瓦の撤去など本格的な工事着手
2月19日	第2回首里城復元に向けた技術検討委員会
3月13日	第3回首里城復元に向けた技術検討委員会
3月17日	「首里城正殿等の復元の工程表策定に向けた技術検討に関する報告」の提出
3月27日	「首里城正殿等の復元に向けた工程表」を閣議決定

### 技術検討委員会の報告

令和元年12月11日に閣議決定された、「首里城復元に向けた基本的な方針」に基づき、沖縄総合事務局は「首里城復元に向けた技術検討委員会(委員長 高良倉吉 琉球大学名誉教授)を設置し、首里城復元等に向けた技術的検討を進めています。技術検討委員会は、令和2年3月17日に「首里城正殿等の復元の工程表策定に向けた技術検討に関する報告」をとりまとめ、工程表策定に当たっての基本的な考え方、今般の火災を踏まえた防火対策の強化、材料調達状況の変化等の反映、その他の検討課題を示しました。

### 首里城正殿等の復元に向けた工程表

昨年度に技術検討委員会においてとりまとめた「首里城正殿等の復元の工程表策定に向けた技術的検討に関する報告」(3月17日)も踏まえ、政府において「首里城正殿等の復元に向けた工程表」(3月27日首里城復元のための関係関係会議)を決定しました。

### 【令和2年3月27日】「首里城正殿等の復元に向けた工程表」(一部抜粋)

- 基本的な考え方
  - ① 前復元時の設計・工程を踏襲することを基本とし、今般の火災を受け、防火対策の強化及び材料調達状況の変化等の反映の観点を踏まえ、工程を定めることとする。
- 技術的課題に関する方針
  - (1) 防火対策の強化
    - ① 再発防止策の徹底
    - ② 火災の早期発見と迅速な初期消火の徹底
    - ③ 消防隊による消火活動の容易化
    - ④ 消火のための水源の確保
    - ⑤ 世界遺産の構成資産である首里城の保護
  - (2) 材料調達状況の変化等の反映
    - ① 木材の調達
    - ② 漆の調達
    - ③ 沖縄特有の赤瓦の製造・施工

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9以降
正殿	材料調達(大屋根)	市場調査							
	設計	基本設計	実施設計						
	材料調達(大屋根)								
	工事	仮設道路 がたき着手		漆塗り	乾燥				
北殿、南殿等	調査	正殿復元の施工モードとして活用							
	検討								

### 既に整備した施設

国が整備した施設	名称	供用年月日	施設概要
正殿	正殿	平成4.11.3	木造2重3階建 建築面積約637㎡ 延床面積約1,199㎡ 棟高約15.6m
広福門	広福門	平成4.11.3	鉄筋コンクリート造(外観木造) 建築面積約166㎡ 延床面積約156㎡ 棟高約9m
瀧刻門	瀧刻門	平成4.11.3	木造平屋建 建築面積約22㎡ 延床面積約20㎡ 棟高約3m
環泉門	環泉門	平成4.11.3	木造平屋建 建築面積約20㎡ 延床面積約19㎡ 棟高約3m
下之御座	下之御座	平成4.11.3	面積1,771㎡
首里森御嶽	首里森御嶽	平成9.12.24	石造(琉球石灰岩)あいかた積み 4.8.5m 石積内の植物ガジュマルやクワジツ
系園・用物座	系園・用物座	平成12.3.31	木造平屋建 建築面積約207㎡ 延床面積約188㎡ 棟高約7m
伏屋	伏屋	平成12.3.31	木造平屋建 建築面積約20㎡ 延床面積約20㎡ 棟高約4m
日影台	日影台	平成12.3.31	日時計、測雨計に設置されていた 日時計の補助的な道具として使われた。
西のアザナ	西のアザナ	平成12.3.31	展望デッキ 180㎡(ユニバーサル対応)
右掖門	右掖門	平成12.6.30	木造平屋建 建築面積約15㎡ 延床面積約14㎡ 棟高約3m
京の内	京の内	平成15.10.4	面積7,498㎡
書院・鎮之間	書院・鎮之間	平成19.1.27	木造平屋建(地下部:RC造)1棟 建築面積約4400㎡ 延床面積約621㎡ 棟高約8m
書院・鎮之間庭園	書院・鎮之間庭園	平成20.8.1	面積8001㎡
淑順門	淑順門	平成22.4.1	木造平屋建 建築面積約15㎡ 延床面積約14㎡ 棟高約3m RC造一部木造2階建(外観木造)
黄金御殿・寄瀨・近音諸所	黄金御殿・寄瀨・近音諸所	平成26.1.24	建築面積約0.4㎡ 延床面積99.1㎡ 棟高約10m
奥書院	奥書院	平成26.1.24	木造平屋建 建築面積約6.4㎡ 延床面積約5.7㎡ 棟高約5m
奥書院庭園	奥書院庭園	平成26.4.1	面積76㎡
鉄線跡	鉄線跡	平成28.3.28	鉄骨造平屋建 建築面積約183㎡ 延床面積約182㎡ 棟高約3m 休憩所として整備
東のアザナ	東のアザナ	平成31.1.21	首里聖域の聖域に位置し、眺望の開けた 場所である。住時は、種や旗を用いて城外への 時刻伝達役も担っていた。
白銀門	白銀門	平成31.1.21	国王死去の際、霊柩を安置する慶慶殿があり、 その正門が白銀門である。取り囲まれている 別名「しろがね門」と呼ばれる。
二階御殿	二階御殿	平成31.1.21	1階鉄筋コンクリート造(外観木造) 2階木造 建築面積約269㎡ 延床面積約429㎡ 棟高約9m
世時殿	世時殿	平成31.1.21	木造平屋建 建築面積約183㎡ 延床面積約182㎡
女官居室	女官居室	平成31.1.21	鉄骨造2階建 建築面積約123㎡ 延床面積約188㎡
後之御座	後之御座	平成31.1.21	面積420㎡
美福門	美福門	平成31.1.21	木造平屋建 建築面積約24㎡ 延床面積約23㎡ 棟高約3m

### 首里城復元に向けた技術検討委員会

- (委員(敬称略)) ○委員長 ●副委員長
- 高良 倉吉 琉球大学名誉教授
  - 安里 進 沖縄県立芸術大学付属研究所客員研究員
  - 伊藤 勉 京都大学名誉教授
  - 小倉 暢之 琉球大学名誉教授
  - 関澤 真 東京理科大学研究推進機構総合研究院教授
  - 田名 愛子 沖縄県立博物館・美術館館長
  - 長谷見 雄二 早稲田大学理工学術院創造型工学部建築学科教授
  - 波照間 永吉 沖縄県立芸術大学名誉教授
  - 室瀬 和美 沖縄芸術大学客員教授
  - 浦井 史郎 東京都市大学特別教授

### 首里城復元に向けた「3本柱」

**段階的公開**  
首里城復元に向けて進む破損瓦等の撤去や躯体の解体、復元工事の様子を、安全性を確保しながら一般公開を進める。

**首里城復元**  
令和4年中の首里城正殿の本体工事の着工に向けて、関係機関と密に連携を図りながら、首里城復元に向けた技術検討委員会での検討を進める。

**地域振興・観光振興への貢献**  
首里城の段階的公開、首里城復元に向けたボランティア活動や公園イベントの開催を通して、沖縄の地域振興・観光振興への貢献に努めていく。

### 都市再生機軸が整備した施設

施設名称	復元又は開園年月日	施設概要
北殿	平成4.11.3	鉄筋コンクリート造(外観木造) 建築面積約532㎡ 延床面積約467㎡ 棟高約9m
南殿・番所	平成4.11.3	鉄筋コンクリート造(外観木造) 建築面積約448㎡ 延床面積約600㎡ 棟高約11m
泰神門	平成4.11.3	鉄筋コンクリート造(外観木造) 延床面積約502㎡ 延床面積約5113㎡ 棟高約10m
御庭	平成4.11.3	面積約2,867㎡

□:令和元年10月31日に焼失した 〇:令和元年10月31日に一部焼失した施設

### 首里城はその役割から、大きく3つの空間で構成されていました。



●【政治・行政空間】(表の世界)  
正殿の西側の範囲で、最も中心となる儀式が執り行われる御座を取り囲むように泰神門や南殿・番所、北殿が建てられており、政治や外交が行われた。さらに広福門や系園・用物座などの行政施設がありました。

●【祭祀空間】  
信仰上の聖域が点在する城内で最も神聖な聖地「京の内」は、首里城発祥に関わる場所で、重要な御祭(うたぎ)が存在した。間得大君(きこえおさきみ)を中心に神女たちが信仰や御祭を行っていた。

●【生活・権利空間】(奥の世界)  
「御内原(おうちばら)」と呼ばれるエリアで、国王やその家族及びそれらに仕える多くの女官たちが生活する場所であり、王族を除いて男子禁制となっていた。ここでは王妃を頂点とした女官組織のもと、儀礼の場として多くの建物がありました。



# 首里城公園 施設概要

沖縄県施設



「首里杜館」は首里城公園のインフォメーションセンターであり、また情報展示と休憩施設です。総合案内、レストラン、売店、駐車場等があり、首里城を見学する前に必要な予備知識を提供します。供用：平成4年



首里城の中でも代表的な門がこの守礼門です。正面の扁額には「守禮之邦(しゅれいのくに)」と書かれており、「琉球は礼節を重んじる国である」という意味です。復元：昭和33年



国王が外出する際、旅の安全を祈願した礼拝所です。琉球石造建造物の代表的なもので、沖縄戦で一部破壊され1957年に復元されました。また平成12年に世界遺産に登録されました。復元：昭和32年



表(行政)空間と御内原(おうちばら)空間を結ぶ建物で、南殿、黄金御殿と2階部分で連結し、内部には鈴引きと呼ばれる部屋がありました。用事の際、鈴が鳴らされ取次役が用件を受けました。現在は、休憩スペースとして供用しています。供用：平成26年



国王が執務の合間に休息した建物であり、建物の南側には庭園があります。現在は、休憩や庭園が観覧できるよう供用しています。供用：平成26年



国王が執務の合間に休息したプライベートな庭園です。発掘調査で、庭園の主景となる鍾乳石が出土し、この鍾乳石(欠損部分を修復)を中心に、首里城内で出土した石や県内から収集した石を利用して、古絵図及び古写真を基に復元しました。供用：平成26年



国王や王妃・王母のプライベートゾーンといえる建物で、2階部分で正殿・二階御殿・近習詰所とつながっています。2階には居間や寝室、庭園がありました。1階には左掖門(さえきもん)(俗称：暗(くら)シン(しん)御門(うじょう))があります。現在は、特別展示室として供用しています。供用：平成26年



別名：あまへ御門(あまへうじょう) 首里城の城郭内へ入る第一の門です。王朝時代首里城へは中国皇帝の公式の使者「冊封使(さつほうし)」が招かれましたが、こうした人々を歓迎するという意味でこのように名付けられました。復元：昭和49年



龍樋は、龍の口から湧水が湧き出ていることからこのように名付けられました。王朝時代は王宮の飲料水として使われ、また中国からの使者「冊封使(さつほうし)」が琉球を訪れた時、那覇港近くにあった宿舎「天使館」まで毎日ここから水を運んだといわれています。供用：平成4年



別名：ひかわ御門(ひかわうじょう) 瑞泉とは、「立派な、めでたい泉」という意味です。門の手前右側にある湧水「龍樋(りゅうひ)」にちなんでこのように名付けられました。供用：平成4年



別名：かご居せ御門(かごいせうじょう) 漏刻とは、中国語で「水時計」という意味で、往時は水槽が置かれ、水が漏れる量で時間を計っていたといわれていました。また、身分の高い役人も国王に敬意を表し、この場所で籠を降りたということから別名「かご居せ御門」とも呼ばれていました。供用：平成4年



国王とその家族の日常の食事を調理した所で、建物の東端に御内原へ出入りする中門があります。現在は、2階は展示物の収蔵庫、1階は多目的室として供用しています。供用：平成26年



正殿は首里城の中心的な建物です。木造三階建て一階の「下庫理(しちやくい)」は主に国王自ら政治や儀式を執り行う場、二階の「大庫理(おほくい)」は国王と親族、女官らが儀式を行う場でした。三階は通気のために設けられた屋根裏部屋です。供用：平成4年



王府の中央行政庁として、日常は大勢の官人が出入りし、首里城の中で最も活気のある館でした。中国の使者「冊封使(さつほうし)」を接待する場所としても使用され、またペリー提督が首里城を訪れた時もこの北殿で歓迎の宴が催されました。供用：平成4年



「淑順」は「清く深くよりそう」という意味とされており、国王やその家族が暮らす御内原への門として使用されていました。別名「みもの御門(うじょう)」、「うなか御門」と呼ばれています。供用：平成22年



漏刻門の正面に置かれている日時計で、漏刻門の水時計の補助的な道具として使われていました。供用：平成12年



供屋の建物用途は不明である。建物の規模や屋根形状は配置図と絵図から想定していました。供用：平成12年



この鐘は「万国津梁の鐘」と名付けられ「琉球は南海の美しい国であり、朝鮮、中国、日本との間にあって、船を万国の架け橋とし貿易によって栄える国である」ということを示す銘文が刻まれています。供用：平成12年



別名：長御門(ながうじょう) 広福とは「福を行き渡らせる」という意味であります。王朝時代、この建物には神社仏閣を管理する「寺社座」と士族の財産をめぐる争いを調停する「大与座(おおくみど)」という役所が置かれていました。供用：平成4年



別名：寄内御門(よすふちうじょう) 欽会門、久慶門、淑順門へと通じる門で、御内原への通用門として使用していました。供用：平成12年



寒水川は瑞泉門前の龍樋とならんで首里城内の重要な水源でした。龍樋が冊封使(さつほうし)の飲料水として使われていたのに対し、寒水川の往時の使われ方の記録は残されていませんが、生活用水のほか防火用水としても利用されたといわれています。



別名：ほこり御門(ほこりうじょう) 欽会門が正門であるのに対し、ここは通用門で主に女性が利用していたといわれています。また、国王が寺院を参詣したり、浦添から以北の地方へ行幸する時にこの門を使用しました。復元：昭和58年



首里城発祥の地ともいわれる聖域で、城内最大の祭祀空間でした。ここでは、聞得大君(きこえおおきみ)や三平等(みひら)の大あむしられと呼ばれる首里の神女たちによって王家繁栄、航海安全、五穀豊穡などが祈られました。供用：平成15年



首里城正殿のある「御庭」へ入る前の広場で、正殿前で行われる様々な儀式の控え場であり、また正殿の建築工事の際には資材置場等として使用されました。現在は城内でのイベント等に利用しています。供用：平成4年



「系図座」は士族の家系図を管理していた役所です。「用物座」は城内で使用する物品、資材等の管理を行っていた場所でした。現在は休憩所と情報案内所として利用されています。供用：平成12年



「琉球開闢神話(りゅうきゅうかいびやくしんわ)」によれば、神が造られた聖地であるとされています。また、城内にはここを含めて「十嶽(とたけ)」と呼ばれる礼拝所があったといわれ、琉球最古の歌謡集「おもろさうし」にも首里森御嶽に関する詩歌が多数登場します。供用：平成9年



別名：君誇御門(きみほこりうじょう) 奉神門は「神をうやまう門」という意味で、首里城正殿のある「御庭」へ入る最後の門です。王朝時代、北側は菓業・茶・煙草等の出納を取り扱う「納殿(なでん)」、南側は「君誇(きみほこり)」で城内の儀式の時などに使われました。供用：平成4年



城郭の西側に築かれた見晴らしのよい見物台が西のアザナです。往時はここに旗を立て鐘を備えて城下按时を知らせていました。この場所からは、慶良間諸島や那覇の町並みが一望できます。供用：平成12年



この門は首里城の修復工事の時、資材の搬入口として使用された門です。普段は石積によって封鎖されていました。現在は見学ルートの一部として利用しています。供用：平成4年



首里城南東側にある通用門です。国王が亡くなると世継ぎの世子が、この門から城内に入り、世誇殿で王位継承儀礼を行いました。別名「すえつぎ御門(うじょう)」と呼ばれています。供用：平成17年



主に酒(泡盛)、油類及び城内で日常的に使用していたお金などを保管管理していた建物で、高床風の2階建ての造りであったと想定されています。建物を復元できる程の資料が確認されていないため、建物の輪郭を平面的に表示し、高床造下層の構造を模したパーゴラ形式の休憩施設を整備しました。供用：平成28年



御庭は、年間を通じて様々な儀式が行われた広場です。御庭には磚(敷き瓦)というタイル状のものが敷かれていますが、この色違いの列は儀式の際に諸官が位の順に並ぶ目印の役割をもっていました。供用：平成4年



右側が「番所」左側が「南殿」です。「番所」は正殿を訪れる人々の受付や国王への取り次ぎの場が敷かれていますが、この色違いの列は儀式の際に諸官が位の順に並ぶ目印の役割をもっていました。供用：平成4年



書院は国王が日常の執務を行った建物であり、また冊封使(さつほうし)や那覇駐在の薩摩役人を招き、ここで接待することもありました。鎖之間は王子などの控所であり、諸役の者たちを招き懇談する施設だったといわれています。供用：平成19年



沖縄県内のグスクの中で、史実として確認された唯一の庭園です。平成14年度から発掘調査や絵図資料の分析や緻密な工事監修を経て、平成20年の8月から一般公開しています。平成21年7月国の名勝に指定されました。供用：平成20年



厩では遺構の規模から3頭～5頭程度の馬が飼われていたと考えられており、また係員詰所では、銭蔵及び厩の看守と城内を24時間監視する監守が詰めていたと考えられています。が、いずれも詳細は不明です。建物を復元できる程の資料が確認されていないため、建物の輪郭のみを平面的に表示しています。供用：平成28年



女官居室は、御内原で奉公する女官達の日常生活の場であったと考えられています。供用：平成31年



平常は王女の居室として使われていました。また、国王が死去した際に世子を新しい国王とするための即位の儀式を行う特別な建物でもありました。供用：平成31年





後之御庭は首里城正殿前の広場（御庭）に対して後ろの広場という意味です。往時の後之御庭は、正殿裏での祭祀・儀礼のための広場及び生活の場でもあったと考えられています。  
供用：平成31年



世添殿は御内原を所管していたところで、王夫人（側室）の住居でした。建物を復元できるほどの資料が確認されていないため、蔵の壁面を立ち上げ、立体的に示しています。  
供用：平成31年



主に宝物を保管管理していた建物がありましたが、建物を復元できるほどの資料が確認されていないため、蔵の壁面を立ち上げ、立体的に示しています。  
供用：平成31年



東のアザナの下方に設けられた門で、別名「しろがね御門（うじょう）」と称されています。白銀門と東のアザナの間に寝殿あり、白銀門は寝殿へ詣る王妃や女官たちが利用した門だと考えられています。  
供用：平成31年



寝廟殿はかつて国王が死去した際に霊柩を安置する殿として使用されました。建物を復元できるほどの資料が確認されていないため、建物基礎を整備しています。  
供用：平成31年



城郭の東側に築かれた物見台です。城内で最も高く、往時は西（いり）のアザナ及び漏刻門（ろうこくもん）と同様に城下に時を知らせる役割もありました。  
供用：平成31年

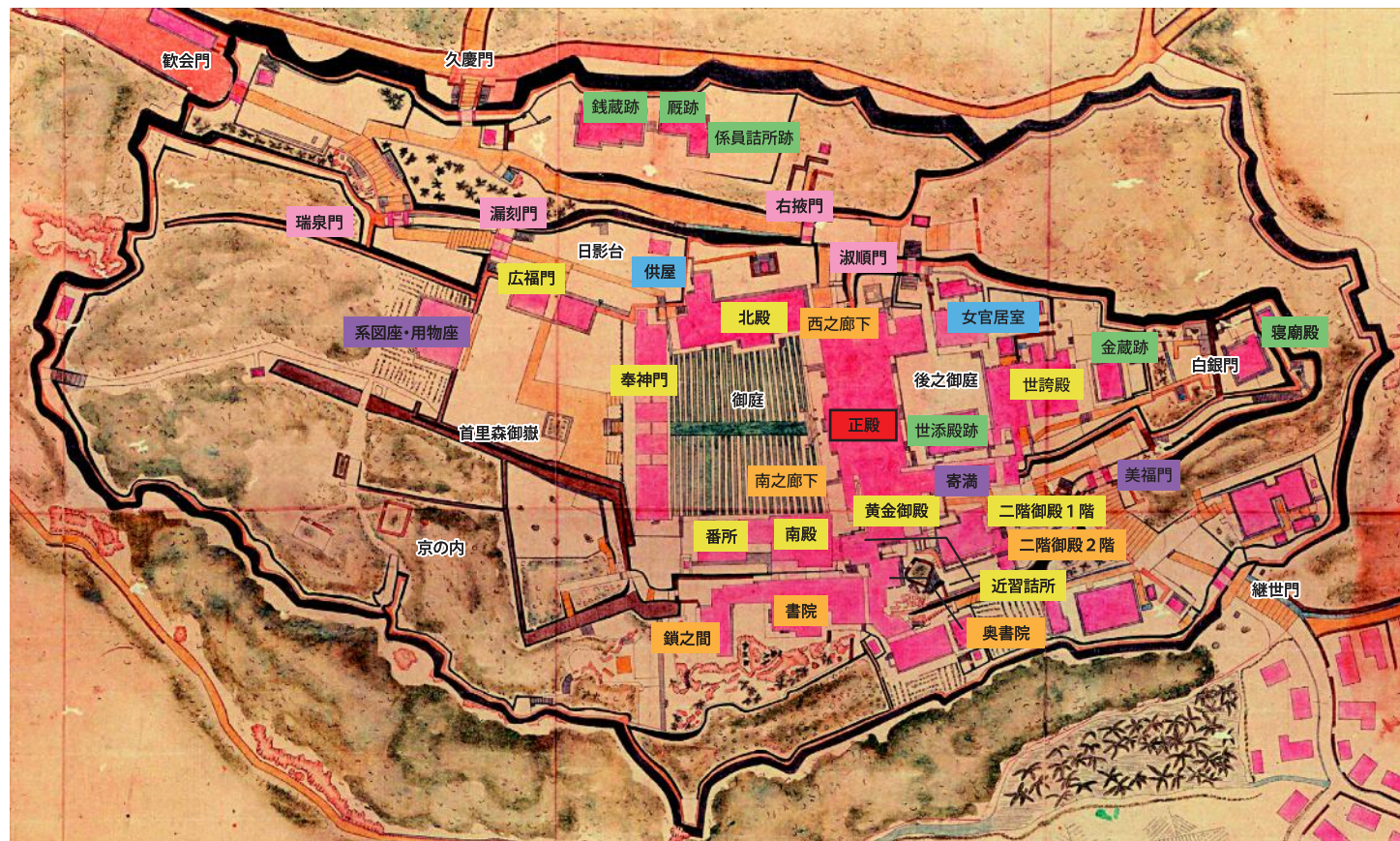


二階御殿は、国王の日常的な居室として使われていました。地形に合わせて北側は2階建、南側は平屋建になっており、2階内部は床の間や連棚のある書院風の造りになっています。  
供用：平成31年



美福門は、内郭に建てられた門で継世門（けいせいもん）が建てられる前までは、美福門が首里城の正門であったとする説もあります。  
供用：平成31年

## 建物復元タイプ



沖縄県首里旧城図（※明治初期）に加筆  
※那覇市歴史博物館提供

## 首里城のすがた



火災前（平成31年1月5日）



火災後（令和元年11月1日）

## 復元タイプの凡例

タイプ	大分類	定義
特A	復元	遺構、図面、古写真、配置図、事例、聞き取りの成果等の根拠資料に基づいて、往時の材料・工法でより精度を上げて内外部とも復元した建築物。
A	復元	遺構、古写真、配置図、事例、聞き取り等の根拠資料に基づいて、往時の材料・工法で内外部とも復元した建築物。
B	準復元	遺構、古写真（内部写真含む）、配置図、事例、聞き取り等の根拠資料に基づいて、往時の材料・工法で内外部とも復元した建築物。間取りについては、一部想定している。
C	外観復元	往時の間取りは不明であるが、遺構、古写真、配置図、事例等の根拠資料に基づいて外部を復元し、内部は公園機能を重視した建築物。
D	外観想定復元	建物を写した古写真は確認されていない。遺構や配置図、古絵図、事例に基づいて外部を想定復元し、内部は公園機能を重視した建築物。
E	外観再現	建物の位置や規模等を確認できる遺構や古写真はない。配置図、古絵図、事例に基づいて外部を再現し、内部は公園機能を重視した建築物。
F	平面表示	建物の位置や規模等を確認できる遺構や古写真はなく、配置図と古絵図等で建物の雰囲気わかる程度。建物の輪郭のみを平面的に表示。

# 国営沖縄記念公園とは

国営沖縄記念公園は、昭和50年度に開催された沖縄国際海洋博覧会を記念し、翌51年度よりその跡地に整備を進めている「海洋博覧会地区」と沖縄の復帰を記念する事業の一環として、昭和61年度より首里城の復元を進めている「首里城地区」からなります。

国営沖縄記念公園事務所では、沖縄観光振興の支援を図れるよう整備を促進するとともに、来園者が安全で快適に園内を利用できるように必要な維持・運営管理を実施しています。

また、両地区の名称は来園者に解りやすく利用しやすい名称として、それぞれ「海洋博公園」「首里城公園」としています。

## 閣議決定

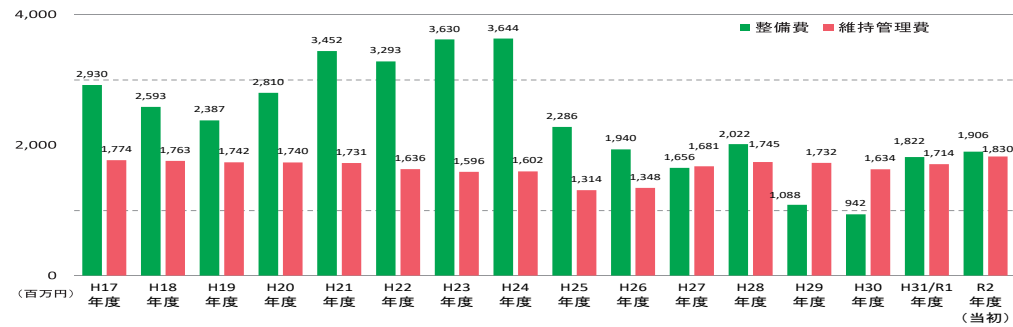
### ■沖縄国際海洋博覧会を記念する公園の設置 (昭和50年7月15日 閣議決定)

沖縄県国頭郡本部町において開催される沖縄国際海洋博覧会の会場(面積約100ヘクタール)の跡地に、沖縄国際海洋博覧会記念公園(仮称)を設置し、国により整備する。

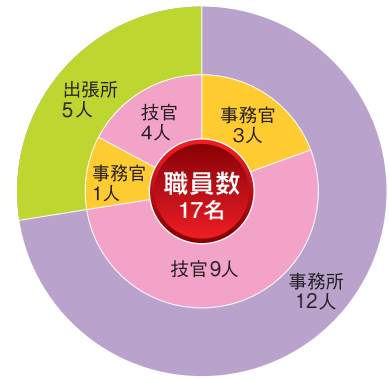
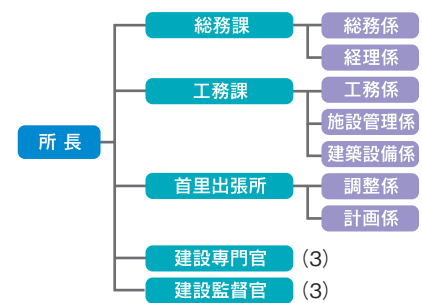
### ■沖縄復帰記念事業として行う都市公園の整備 (昭和61年11月28日 閣議決定)

沖縄の復帰を記念する事業の一環として、首里城跡地(沖縄県那覇市首里城跡地の面積約4ヘクタール)の区域を国営沖縄記念公園首里城地区、昭和50年7月15日に閣議決定(沖縄国際海洋博覧会を記念する公園の設置について)された国営沖縄海洋博覧会記念公園を国営沖縄記念公園海洋博覧会地区として整備する。

## 事業費の推移(補正含む)



## 組織図と職員構成



## 事業の沿革

年代	事項
昭和50	07.15 沖縄国際海洋公園の設置について閣議決定される。
昭和50	07.20 沖縄国際海洋博覧会開幕
昭和50	01.18 沖縄国際海洋博覧会閉幕
昭和51	03.22 都市計画法に基づき都市計画決定(沖縄県告示第88号)(77ha)
昭和51	03.27 都市計画事業承認(建設省告示第507号)S51.3.27~S56.3.31
昭和51	07.31 国有財産等引継(7月31日まで通産省所管、8月1日より建設省所管)
昭和51	08.01 暫定供用開始
昭和51	08.30 都市公園の設置の公告(建設省告示第1237号)(海洋博覧会地区)
昭和51	09.01 正式供用開始
昭和56	03.23 都市計画事業承認(建設省告示第625号)S51.3.27~S61.3.31
昭和56	03.22 都市計画事業承認(建設省告示第731号)S51.3.27~S66.3.31
昭和61	11.28 首里城跡約4haを「国営沖縄記念公園首里城地区」として整備することが閣議決定され、従来の海洋博覧会記念公園は「国営沖縄記念公園海洋博覧会地区」と位置付けられる。
昭和62	02.27 首里城公園都市計画決定(沖縄県告示第135号)(約17.8ha)
昭和62	10.05 都市計画事業承認(建設省告示第1687号)S62.10.5~S66.3.31(首里城地区)
昭和63	01.28 都市公園を設置すべき区域の決定告示(建設省告示第133号)首里城地区追加
平成3	03.12 都市計画事業承認(建設省告示第519号)S51.3.27~H8.3.31(海洋博覧会地区)
平成3	03.12 都市計画事業承認(建設省告示第520号)S62.10.5~H8.3.31(首里城地区)
平成4	10.27 都市公園の設置の告示(建設省告示第1749号)(首里城地区)
平成4	11.03 首里城公園供用開始(約1.7ha)
平成8	03.28 都市計画事業承認(建設省告示第1030号)S51.3.27~H13.3.31(海洋博覧会地区)
平成8	03.28 都市計画事業承認(建設省告示第1031号)S62.10.5~H13.3.31(首里城地区)
平成13	03.30 都市計画事業承認(国土交通省告示第444号)S51.3.27~H15.3.31(海洋博覧会地区)
平成13	03.30 都市計画事業承認(国土交通省告示第445号)S62.10.5~H15.3.31(首里城地区)
平成15	03.31 都市計画事業承認(国土交通省告示第354号)S51.3.27~H20.3.31(海洋博覧会地区)
平成15	03.31 都市計画事業承認(国土交通省告示第355号)S62.10.5~H20.3.31(首里城地区)
平成20	02.29 都市計画の変更(沖縄県告示第93号)(海洋博覧会地区)(77.0ha)
平成20	03.31 都市計画事業承認(国土交通省告示第391号)S51.3.27~H25.3.31(海洋博覧会地区)
平成20	03.31 都市計画事業承認(国土交通省告示第391号)S62.10.5~H25.3.31(首里城地区)
平成22	01.21 都市計画の変更(沖縄県告示第19号)(海洋博覧会地区)(77.2ha)
平成23	07.15 都市計画事業承認(国土交通省告示第756号)S51.3.27~H25.3.31(海洋博覧会地区)
平成23	07.15 都市計画事業承認(国土交通省告示第756号)S62.10.5~H25.3.31(首里城地区)
平成24	04.18 都市公園の供用開始告示(沖縄総合事務局告示第29号)(海洋博覧会地区)
平成25	03.29 都市計画事業承認(国土交通省告示第305号)S51.3.27~H30.3.31(海洋博覧会地区)
平成25	03.29 都市計画事業承認(国土交通省告示第305号)S62.10.5~H30.3.31(首里城地区)
平成26	01.10 都市公園の供用開始告示(沖縄総合事務局告示第2号)(首里城地区)
平成26	03.18 都市公園の供用開始告示(沖縄総合事務局告示第24号)(海洋博覧会地区)
平成26	03.18 都市公園の供用開始告示(沖縄総合事務局告示第25号)(首里城地区)
平成28	03.14 都市公園の供用開始告示(沖縄総合事務局告示第12号)(首里城地区)
平成29	03.17 都市公園の供用開始告示(沖縄総合事務局告示第11号)(首里城地区)
平成30	07.31 都市計画事業承認(国土交通省告示第981号)H30.7.31~H35.3.31(海洋博覧会地区)
平成30	07.31 都市計画事業承認(国土交通省告示第981号)H30.7.31~H35.3.31(首里城地区)
平成31	01.18 都市公園の供用開始告示(沖縄総合事務局告示第1号)(首里城地区)

## 事務所の沿革

年代	事項
昭和51	07.01 海洋博覧会記念公園事務所発足(所長、建設専門官、庶務係、工務係、施設管理係)
昭和52	10.01 庶務課設置(庶務係)
昭和53	04.05 建設専門官を廃止、工務課設置(工務係、施設管理係)
昭和54	10.01 工務課に建築設備係設置
昭和56	10.01 建設監督官設置
昭和59	10.01 庶務課に経理係設置
昭和61	10.01 建設専門官設置、工務課に計画係設置
昭和62	03.25 海洋博覧会記念公園事務所から国営沖縄記念公園事務所へ名称変更
昭和62	05.21 建設専門官、計画係の廃止、首里出張所設置(所長、計画係設置)
昭和62	06.24 国営沖縄記念公園事務所 首里出張所開所
昭和63	10.01 首里出張所に工事係設置
昭和63	10.01 建設監督官設置
平成元	10.01 首里出張所工事係廃止、工事第一係、工事第二係設置
平成2	10.01 首里出張所に調整係設置
平成7	04.01 建設専門官設置、首里出張所工事第一係、工事第二係廃止、工事係設置
平成22	04.01 首里出張所工事係廃止、庶務課から総務課へ名称変更
平成28	04.01 建設監督官 廃止(2→1名)
令和元	10.31 首里出張所焼失
令和2	01.01 沖縄総合事務局内へ首里出張所仮移設、建設専門官設置(1→3名)、建設監督官設置(1→3名)



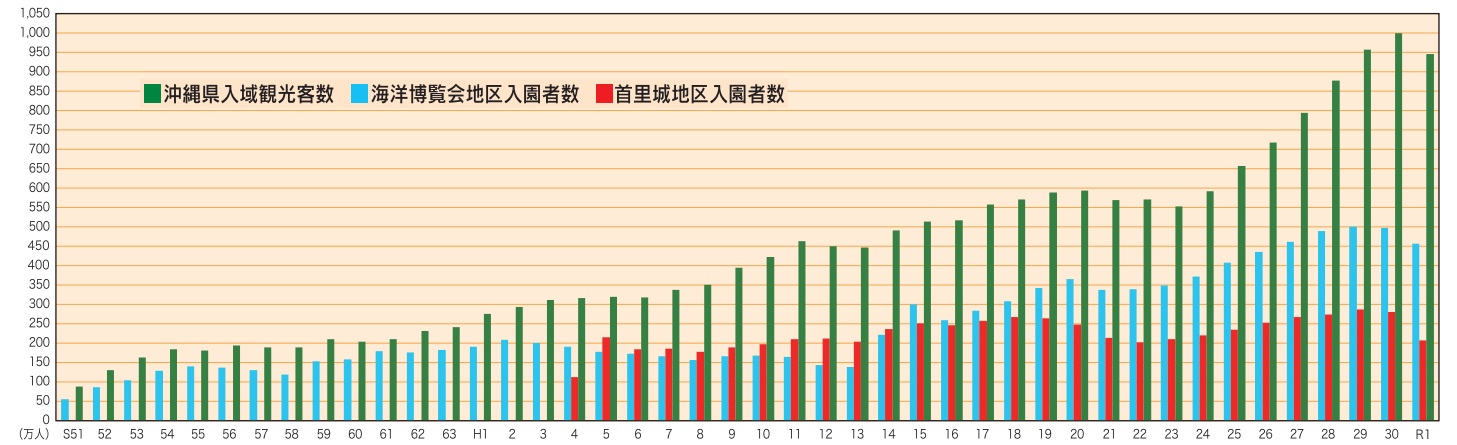
国営沖縄記念公園事務所(本部町字石川)

# 資料編

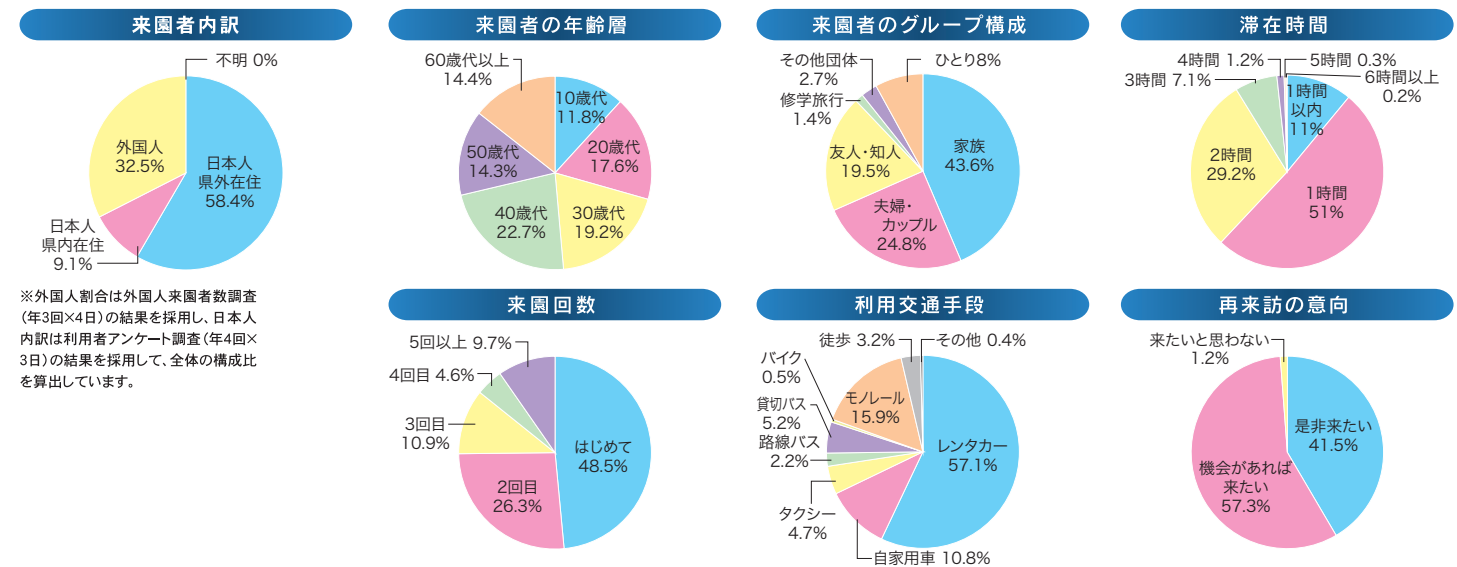
## 首里城地区

年度	入園者			日最大	日平均	入館者数(有料区域)
	入園者総数	大人	小人			
平成4	1,114,181	1,032,895	81,286	19,930	7,478	959,325
5	2,148,249	1,978,129	170,120	22,434	5,902	1,720,194
6	1,841,073	1,690,165	150,908	21,676	5,044	1,469,324
7	1,852,366	1,709,220	143,146	27,955	5,061	1,510,741
8	1,771,089	1,647,553	123,536	13,988	4,893	1,456,269
9	1,887,202	1,773,499	113,703	11,408	5,213	1,582,424
10	1,973,565	1,822,447	151,118	11,236	5,407	1,619,512
11	2,095,646	1,922,915	172,731	10,557	5,757	1,721,869
12	2,117,218	1,965,024	152,194	12,936	5,914	1,680,402
13	2,035,291	1,887,108	148,183	12,811	5,591	1,505,807
14	2,361,566	2,189,197	172,369	13,209	6,506	1,693,771
15	2,513,038	2,331,615	181,423	14,528	6,885	1,755,507
16	2,455,362	2,244,301	211,061	12,637	6,764	1,674,707
17	2,569,726	2,345,458	224,268	16,651	7,040	1,794,188
18	2,674,641	2,436,003	238,638	14,502	7,328	1,820,870
19	2,629,741	2,374,049	255,692	13,494	7,205	1,913,287
20	2,470,340	2,198,019	272,321	12,913	6,768	1,936,387
21	2,130,139	1,850,312	279,827	10,669	5,836	1,790,981
22	2,008,352	1,754,760	253,592	10,944	5,502	1,674,924
23	2,102,927	1,829,548	273,379	10,636	5,761	1,680,539
24	2,190,018	1,908,921	281,097	13,983	6,033	1,753,386
25	2,349,297	2,058,872	290,425	14,347	6,454	1,732,876
26	2,522,395	2,226,910	295,485	14,385	6,968	1,813,274
27	2,672,823	2,353,142	319,681	14,647	7,303	1,875,838
28	2,727,677	2,387,542	340,135	15,166	7,473	1,886,939
29	2,857,390	2,494,480	362,910	16,060	7,850	1,814,041
30	2,806,045	2,457,062	348,983	13,866	7,709	1,775,867
31/令和元	2,058,925	1,772,664	286,261	14,947	6,374	1,051,438
計	62,936,282	56,641,810	6,294,472	-	-	46,664,687

## 入域観光客と公園入園者の推移



## 令和元年度アンケート調査による利用実態(首里城地区)



※外国人割合は外国人来園者数調査(年3回×4日)の結果を採用し、日本人内訳は利用者アンケート調査(年4回×3日)の結果を採用して、全体の構成比を算出しています。